



## 21世紀幕開けを告げる「増田塾」、いよいよ開幕！

不思議なことには「裏」(真相)がある！

「リベラル世界秩序 R.I.P.(静かに眠れ)」(2018年3月論文)を発表して戦後の秩序の終わりを告げ、新秩序を求めてキッシンジャーと共にトランプを現状スクラップ役として選んだキングメーカーとして CFR(国際問題評議会)会長リチャード・ハースは何故バイデンにオバマ政権逆戻り人事を勧告したのか。

資本による世界支配の為、常に小さい政府(規制緩和、減税、金融緩和)を求めてきたユダヤ資本は何故大きい政府(規制強化、増税、財政健全化)の社会主義者バイデンを選んだのか。

何故アメリカの司法は中国の大統領選干渉を許したのか。

トランプの目の敵下院議長ペロシが憲法第25条適用でトランプに大統領辞任させペンス副大統領を大統領にしてトランプの犯罪の総てを大統領恩赦にすることを暗に弾劾訴追条件にしていたのにトランプは何故「魔女狩り」だなどと逆らい「豚箱」行きの道を選んだのか。

政治、経済、さらには歴史にとって、大事なものは「真実」ではなく、「結果」である。

2001年の9/11(同時多発テロ)は誰が WTC(世界貿易センタービルディング)を爆破したかではなく、誰がその「結果」を求めていたかである。

2019年12月武漢で発症した新型コロナがアメリカ、その他世界に感染が広がり政治、経済、人々の生活を脅かしている。

新型コロナが中国の武漢細菌研究所で開発された細菌兵器であろうとなかろうと、又武漢ワールド・ミリタリー・ゲーム(10/18/20から10日間)に参加する為世界から武漢に集まった選手、観客に米軍の秘密組織が新型コロナを散布したのが事実であろうとなかろうと、それは全く重要ではない。

肝心なことは「結果」である。

結果アメリカはどうなったのか、又中国はどうなのかである。

「細菌兵器」を中国か、アメリカか、あるいは双方が使ったのかどうかではなく致命傷を受けたのはアメリカか中国かである。

新型コロナを米中細菌戦争とするなら第一次米中戦争の結果は中国勝利である。

そして2021年11月3日の米大統領選が行われ、中国が干渉したかどうかまだ分からないが、中国が望むバイデンが勝利したのだから、米大統領選の結果は中国の勝ちである。

アメリカの愛国者、ナショナリストとシオニスト(ユダヤ)がクーデターでバイデンを消して政権を乗っ取り、中国に新型コロナ以外で決戦を挑むことも有り得る。

来週金曜1月20日(米大統領就任式前日)から「増田塾」を開催する予定である。

前記総ての疑問に答える。

その結果、アメリカと中国はどうなる。

それによっては日本もただでは済まなくなる。

総ては「増田塾(インターネット国際政経塾)」で明らかになる。

★Youtube「増田俊男チャンネル」にて毎日動画配信中！

視聴方法:Google、Yahoo などから「増田俊男チャンネル」を検索して下さい。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前にマスダ U.S.リサーチジャパン株式会社 (FAX: 03-3956-1313) までお知らせ下さい。